

平成31年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立白井中学校
<p>1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて</p> <p>授業を通して全教科で生徒が「達成感」を得られるような授業づくりを追究し、一人一人の学習意欲を高める</p> <p><自分を高める></p> <ul style="list-style-type: none">・形態や集団を変えながら「教え合い学習会」を実施し意欲を高める・授業の振り返りをし、80字程度で自分の言葉でまとめる・テスト前に5教科の補習を実施 <p><今 頑張る></p> <ul style="list-style-type: none">・数学における習熟度別少人数授業を実施・家庭学習を毎日実施、「家庭学習ノート」に行い確認する・思考する問題、資料を活用する問題に根気強く取り組み、さらに学びを深める <p><みんなで良くなる 集団の意欲向上></p> <ul style="list-style-type: none">・「話し合う」「比べ合う」「助け合う」ため少人数グループでの学習を積極的に取り入れる。・発表用ホワイトボードを各学級に用意 <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none">○家庭学習の手引きの作成<ul style="list-style-type: none">・5教科の有効な家庭学習の方法を検討しまとめたもの・4月の学活で読み合わせを各クラスで実施○板書のユニバーサルデザイン化○全教科での「めあて」の統一○ICT 機器や図書室の活用	

平成31年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立大山口中学校
1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて	
(1) 授業を通して	
	<ul style="list-style-type: none">・国語科では、授業内で漢字練習をし、基礎的な語彙力をつけさせる。話し合い活動を中心に据えた発問・授業構成で、根拠を挙げて自分の考えを述べる力を身につけさせる。発表や交流の形態を工夫して、筋道を立てて意見を述べる力を身につけさせる。・社会科では、授業の中で、時事ニュースを取り上げる機会を増やし、小テストを取り入れる。グループ活動を取り入れて授業に主体的に参加できるようにする。・数学科では昨年に引き続き、少人数授業や T.T、グループやペアによる話し合いを取り入れた授業を実施して基礎基本の定着を図り、分かりやすい授業の実践を目指す。・理科では、導入で小学校での既習事項や身近な現象を考えさせるようにし、ICT 機器を利用した資料を用いて、基礎基本の徹底を図る。・英語科では、コミュニケーション能力の育成のためにペアワークを行い、発話量を増やすように工夫する。また、各レッスンごとに暗唱や英作文を取り入れる。また、何度も単語を書くなどし、定着を図る。
(2) 家庭学習を通して	
	<ul style="list-style-type: none">・副教材を復習の教材として利用し、定期的に提出を促す。・数学科では問題に対する質問に細やかに応じられるようにしている。・社会科では、時事問題に多く触れさせることで社会的事象への関心を高めさせるために廊下に時事関係の新聞を切り抜いて掲示する。・英語科では全学年でドリルを活用し、復習にあてている。新出単語の意味調べや本文写しなどを家庭学習として課している。・年度初めに各家庭向けに生徒の学習レベルに応じた「家庭学習の仕方」を配布して、学習方法を自分で選択できるようにした。
2 その他	
	<ul style="list-style-type: none">・通常学級における特別支援教育の観点を取り入れた学級経営や授業作りを行っていく。・職員研修を充実し、職員の授業力をつける研修を行っていく。・昨年度より相互授業参観を実施し、教科指導の方法について研修を深めていく。

平成31年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立南山中学校
<p>1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて</p> <p>(1) 授業を通して</p> <ul style="list-style-type: none">○全教科で、学習課題を青で囲み、まとめを赤で囲み、本時のめあて等を明確にする。○必要に応じて、授業中に小グループ活動を取り入れ、意見を交換しながら考えを深められる時間を確保する。○1・3年の数学科における少人数指導の充実<ul style="list-style-type: none">・数学の苦手な生徒を中心によりきめ細やかな指導を徹底し、生徒の苦手意識を減らすために1クラスを2つのグループに分け、2名の教員で少人数指導を実施する。・単元テストや定期テストの結果を参考に、年に数回コースの入れ替えを行う。○読書活動の推進（千葉県学校教育指導の指針の「確かな学力」に結びつく）<ul style="list-style-type: none">・読書活動推進補助教員と学習図書委員会が中心となり、図書室の環境整備をすすめたり、図書室の利用率向上の呼びかけなどに努める。・読書活動推進補助教員と連携して、授業の中にブックトークを取り入れ、図書室の本の紹介や図書の利用の促進を図る。国語科でのビブリオバトルで、思考力・表現力・言語活動の向上を図る。・定期的に読書活動推進補助教員が、各学級に“読み聞かせ”を行い、本に親しみを持たせる。 <p>(2) 家庭学習を通して</p> <ul style="list-style-type: none">○学習図書委員会の活動の一つとして、家庭学習の取り組みを行っている。また、学級担任も積極的に関わり、家庭学習の習慣を身につけさせる。○家庭学習の内容向上のため、各教科で優れた取り組みを生徒に示すなどする。○定期テストのテスト範囲が発表になったとき、学習計画表を立てる意義などを話し、学習計画を立てさせ、継続的に点検をし、内容についても指導する。また、テスト前に質問学習会を設定し、家庭学習や授業での疑問に答える機会を一斉に行う。	

平成31年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立七次台中学校
1	<p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて</p> <p>(1) 授業を通して</p> <p>昨年度に引き続き、今年度の研究主題・指導重点として、4人を基本としたT字班での学習（課題設定や発問の工夫）を全教科・領域で取り組んでいる。1時間の授業内で1回はこの学習形態を用いて話し合い活動を行うようにしている。</p> <p>(2) 家庭学習を通して</p> <p>○「自学ノート」</p> <p>A4版の家庭学習帳を購入し、1日1ページ学習を取り入れている。担任に提出しチェックをすることで、家庭学習の習慣づけを促している。各教科の課題プリントなどを有効活用している。</p> <p>○学習プリントの作成</p> <p>5教科の自主学習ができるプリントを作成し、各学年の学習コーナーに設置している。単元終了後の復習や定期テストに向けての学習、既習事項の復習が繰り返しできるようにし、学習意欲の喚起を行っている。</p>
2	<p>基礎学力の定着に向けて</p> <p>○下位の生徒への個別支援</p> <p>数学の授業での少人数指導やティームティーチングによる指導をはじめ、長期休業中の学習会の実施、放課後の個別指導など、一斉授業では理解を深められない生徒に、実態に合わせた取組を行っている。</p> <p>○学習優先日</p> <p>本年度より月1回の学習優先日を設け、各学年の学習内容の定着が不十分な生徒を抽出して放課後補習を行っている。内容については学年裁量であるが、英語の単語練習等を個別に指導したり、ワークを解く時間を確保している。</p>
3	<p>定期テストに向けて</p> <p>○定期テスト前の補習</p> <p>朝、放課後、休み時間を活用し補習を実施し、生徒の苦手な分野をフォローしている。今年度は夏季休業中にテスト対策学習会を実施する。</p> <p>○委員会活動の取組</p> <p>学習委員会が「定期テスト予想問題」を作成し、定期テスト前諸活動停止期間の朝読書の時間に配布し、解く時間を確保している。</p>
4	<p>教員の資質向上に向けて</p> <p>校内研修会、相互授業参観、市主催夏季研修講座への積極的な参加、小中連携交流会、指導室訪問実施へ向けての研修を予定している。</p>

平成31年度 学力向上のための取り組み

学 校 名	白井市立桜台中学校
1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて	<p>(1) 授業を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数グループでの学習（全教科） 言語活動の充実を目指す観点から、生徒同士の対話を重視し、全教科で、少人数グループの話し合いを意図的に取り入れていくことで、生徒が主体的な立場で思考し、理解を深めていくことを目指す。 ○校内授業研修会の実施 北総教育事務所の指導主事を講師として、全教科で校内授業研修会を実施し、新学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践するための授業力の向上を図る。 ○ICT 機器の活用 ICT 機器を活用した資料の提示により、生徒の興味・関心を喚起し意欲の向上につなげたり、互いの意見を比較・共有する場を演出したり、資料から得た情報を基に、確かな理解へ導く支援をすることを旨とする。 ○授業の振り返りを取り入れた学習活動 対話的な学びの場面をより一層設定するとともに、授業の最後に、その授業の振り返りとして、授業でわかったことや学んだことをまとめて書く時間を設け、生徒の書く力や伝え合う力の向上を図る。 ○授業評価の工夫 よりよい授業作りのため、誰が見ても分かりやすい授業を目指し、教職員同士による授業参観、生徒や保護者による授業評価を行い、授業改善に役立てる。 <p>(2) 家庭学習を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習評価テストの実施 家庭学習習慣の確立への一助と各教科の基礎、基本の習得を目的とする。 実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ①課題配付（国・数・社・理・英）の5教科で実施 ※1，2年生：各教科5回ずつ実施。（年間で25回実施） ②テスト実施(毎週月曜日の朝，テスト5分，採点5分。) ③不合格者の補習（当日の放課後20分間与えられた課題に取り組む。) ○家庭学習プリントの配付（各教科，各授業で） 教科ごとに工夫し，家庭学習として取り組めるプリント類の配付。
2 その他	<p>千葉県標準学力検査の結果を見ると、ほぼ県平均程度であり、数年前とその実態は大きく変わってきている。多様な生徒に対応するため、授業方法の改善、授業力アップを目指す取り組みが必要である。同時に、家庭学習の習慣を身につけさせることも必要であり、「家庭学習テスト」の取り組みはその一環である。</p>